



「うわばき君」

株式会社ムーンスター 1957年頃発売

上履き

半世紀にわたって進化を続けるベストセラー

前ゴムタイプからバレータイプへ 7色の「スクールカラー」がヒット

子供の頃、誰もが学校で履いていた上履き。数社ある国内メーカーの中でも多種類の上履きを作っているのが、1873(明治6)年創業の株式会社ムーンスターだ。初代・倉田雲平が久留米にて座敷足袋の生産を始めたのが出発点で、1922(大正11)年に地下足袋の生産を開始。戦後はゴム底靴をメインにさまざまな種類の靴を製造してきた。

上履きに関する正確な記録はどこにも残っていない。ムーンスターの資料に「上履き」の文字が初めて記載されたのは1957(昭和32)年。前ゴム靴「新製品Aシューズ」の説明として、「上ばきに好適。いま女子学生間の人気者。」と書かれている。続く翌年の資料では、上履きに最適な新製品として「バレーシューズ バンド付」が紹介されている。1950年代後半にムーンスターから、今私たちが使っている上履きの原型モデルが発売されたことは間違いないようだ。

上履きの基本形は、前ゴムシューズタイプとバレーシューズタイプの2種類。1950年代半ばまでは前ゴムシューズが多かったが、それ以降はバレーシューズが主流になった。ムーンスターは、1964(昭和39)年に現在も継続販売しているバレーシューズ上履きのヒット商品「スクールカラー」を発売。学校別・学年別・男女別などで区別しやすいよう、アッパーの先端部とソール近くの外周に色を付けた。用意したカラーは赤・茶・白・緑・青・黄・コバルトの7色。色のラインアップは現行商品もほとんど変わっていない。

1970年代に入ると、最初の大きな変更点が出てきた。それまで合成ゴムだったソールにPVC(ポリ塩化ビニール)を使った製品が登場。PVCソールは耐摩耗性が高く、水場で滑りにくい。また大量生産しやすく製造コストを抑えられるので、価格も合成ゴムソールの上履きより安くできる。アッパー素材は綿布またはビニールが基本だが、1980年代になると、通気性の良いメッシュ素材を使った製品が登場した。機能面でも、銀の抗菌作用で臭いのもととなる菌をカット

する「サニタイズAg」をほとんどの製品に適用。アッパーに「テフロン」加工を施して汚れの染み込みを予防する製品もある。かかと部分に特殊なゴムの部品を装着したユニークなモデルも生まれた。

病院やケア施設で大人気! 新市場を開拓した「大人の上履き」

現在販売されているムーンスターの上履きは、

全部で約30タイプにも及ぶ。ここまで種類が増えた理由は、上履き需要を担う学校側の細かなニーズに応えるため。少々個性的な商品であっても販売数が大きいので、十分ビジネスになるのだ。それゆえ学校以外の市場はあまり開発してこなかったが、今年は予想外の大きな変化があった。

数年前、一人の営業担当者が、病院やリハビリセンター近くの靴屋で上履きがよく売れていることに気が付いた。調べてみると、買っているのは急に入院することになった患者や、リハビリに励む人たちだった。病院やリハビリセンターには、転倒予防のためスリッパを禁止している施設が多い。かといって外履き用の靴では着脱が面倒。気軽に履けて軽い運動にも対応できる室内履きが求められていたのだ。上履きなら、そんなニーズに完璧に応えられる。

隠れた市場を見つけたムーンスターは今年3月、新商品「大人の上履き」を発売した。アッパーには立体メッシュ素材を採用し、優れた軽量性・通気性・伸縮性を実現。汚れても簡単に洗うことができるので、病院内で重要になる清潔さも維持できる。アウトソールにはベステック素材を使用して、軽量性・弾力性・防滑性を追求。インソールにも「サニタイズAg」を適用して抗菌加工を施している。

デザインは、履き口のゴムによって簡単に着脱できる「スリッポンタイプ」と、足のむくみに応じて調節できる「甲バンドタイプ」の2種類。色はそれぞれホワイトとネイビーの2色がある。価格は各2,100円。子供用上履きよりは高めだが、常時履く靴としては十分リーズナブルだ。

この「大人の上履き」、販売前から計画の倍以上の受注を集めるほど多くの反響があったという。従来の上履きは販売ルートが学校関連の小売店にはほぼ限定されていたが、「大人の上履き」は大手スーパーでも販売されており、老若男女を問わず幅広い層に売れている。

ムーンスターは今年創業140周年を迎える。節目の年として、成長し続ける企業・ブランドを目指し、新たなプロジェクトをスタートさせた。2013年秋冬製品より「コミュニケーションロゴマーク」をしるして、製品保証制度を導入する。全ての世代に愛用されるラインアップをそろえ、ムーンスターブランドを強化していく方針だ。広報活動を目的に、上履きをモチーフにしたキャラクター「うわばき君」も作った。

長い歴史を通じて今もなお、快適な靴作りへの思いは変わらない。



初めて上履きが表記された「新製品Aシューズ」。ムーンスター製前ゴム上履きの原型。

1950

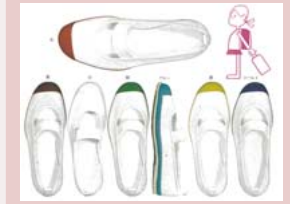


1956年に発売されていた人気商品、紐付きバレーシューズ。



「バレーシューズ バンド付」。バレーシューズ型上履きの原型。

1960



1964年発売。7色の「スクールカラー」。



1960年代半ばの工場。



PVCソールの「アルファスクールカラー」。

1970



1980

かかと踏み付け防止機能を搭載した、多機能上履き「カラーメッシュ02」。



2013

2013年3月の新商品「大人の上履き」。10月に新色(ベージュとラベンダー)も加わる。

激戦市場が続くジュニアシューズでは「バネのチカラ」で子供たちにアピール

比較的地味な上履き市場と正反対なのが、ジュニアシューズの市場。「速く走りたい」という子供の願いを叶えるため、メーカーは走りをサポートする機能を搭載したシューズを次々と開発している。ムーンスターは2001(平成13)年に「スーパースター」ブランドをリリース。2009(平成21)年夏には独自開発したプレート状の「パワーバネ」をソールに搭載した新モデルを発売した。「パワーバネ」はその後も進化し、昨年末には螺旋の立体形状にした「パワーバネ3D」モデルが登場。目的に応じたバネを採用した「バネのチカラ」シリーズとして、競合製品と激しい競争を繰り広げている。

「パワーバネ3D」で蹴り出し力をアップする「スーパースター」。



詳しくは…

コムジン

検索

<http://www.nttcom.co.jp/comzine/>